

令和元年度地方創生推進交付金事業 外部評価実施結果

事業名	① よしのびと7,399人 愛・支えあい事業							
事業の目的	吉野町における課題であるコミュニティの弱体化、女性・高齢者の活躍機会の不足を解決するため、シェアリングエコノミーのしくみを活用し、女性や高齢者の潜在的なスキルを市場に展開し、スキルシェアサービスを行う事業者と地域の事業者・団体と連携し、地域住民のニーズにあった多様な活動ができる環境づくりを行う。							
総合戦略で関連するKPI	女性の起業・創業・(再)就職者数(人)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
		-	1	6	9	13	2	-
今後の方針	<p>事業の継続</p> <p>総合戦略に掲げる「地域における女性の活動推進」に向けて、土台作りとして一定の効果があがっていると考えており、令和3年度の自走に向け制度設計を令和2年度中に行っていく予定。</p> <p>具体的には、広くシステムの周知を行いながら、子育て中の方や専業主婦の方が空いた時間を有効に活用し、地域との関わりを持ちやすくなるように社会福祉協議会と連携しながら事業内容を検討していく。</p>							
外部評価委員による評価	総合戦略のKPI達成に有効であった							
外部評価委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実質的には準備段階だと思われるが、その達成状況は良好である。</li> <li>・ 広報方法を考えなければならない。もっと住民周知する必要がある。</li> <li>・ 町民に対し、もう少し分かりやすくシェアリングエコノミーの仕組みの周知を工夫する必要がある。</li> <li>・ 自走を目指していることは、KPIを単なる数値目標としていない。このことは非常に評価できる。</li> <li>・ WEBプラットフォーム利用登録者数は目標値50人に対して実績値も50人と目標を達成している。</li> <li>・ 事業の評価を行っていく面はあるものの、実績等を踏まえれば、次年度以降につながっていく内容だったと考える。</li> </ul>							

事業名	② 文化財の国際的展開を通じた奈良の国際ブランド力最大化プロジェクト							
事業の目的	歴史・文化への造詣が深い層や富裕層等を中心に一層の奈良への関心を喚起し、外国人観光客の本県への誘客を着実に増加させるとともに周遊・滞在型観光の促進を図るとともに、仏像展示の実施地である英仏を中心に取組を強化する。							
総合戦略で関連するKPI	外国人宿泊者数(人)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
		1,000	2,953	3,270	2,697	1,727	2,490	-
今後の方針	<p>事業の継続</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、先を見据えたインバウンド旅行需要の喚起を図るための事業を今後も継続的に進めていく必要がある。また、ワールドマスターズゲームズ関西、万博の開催も見据え、引き続き奈良市を始めとした他市町村とも連携の上、面的にインバウンドへのプロモーションやツアーコンテンツの造成に取り組んでいく必要がある。</p>							
外部評価委員による評価	総合戦略のKPI達成に有効であった							
外部評価委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可能であれば、旅行者に対する調査を行い、事業の有効性をさらに検証されたい。</li> <li>・ コロナの影響もあるのでフランスのみをターゲットにするのではなく、もう少しターゲットを広げた方が良いのではないかな。</li> <li>・ インバウンド頼みは数が読めない。</li> <li>・ コロナも含めて不確定要素が大きい。</li> <li>・ インバウンドの事業を止める事なく進めてほしい。</li> <li>・ プロモーションの評価についても研究が必要。</li> <li>・ 令和元年度に関しては、外国人宿泊数の目標値を達成するなど一定の成果を出していたが、コロナの影響により、令和2年度以降は当初思い描いていた事業展開とはならない可能性が強い。</li> <li>・ 観光を主要産業の一つとする吉野町としては、外国人宿泊者数の増加には今後も積極的に取り組んでいく必要がある。その為には他の市町村とも十分に連携の上、様々な施策や考えを打ち出していかなければならないと考える。</li> </ul>							

事業名	③ スポーツ及び森林の魅力を核とした観光コンテンツ集約化による「吉野DMC」形成推進事業							
事業の目的	我が国独自の信仰である修験道、世界遺産の主要構成要素である大峯奥駈道や津風呂湖等を活用したスポーツ・アクティビティ、日本遺産認定に代表される当地域の人々の暮らしを支えてきた木材関連産業、大海人皇子が伝えたとされる手漉き和紙産業、独自の食文化(柿の葉寿司や吉野葛等)などインバウンドを中心に集客の見込めるコンテンツが数多くありながら、情報が集約されていないことにより、来訪者がそれらを体感できていない。これらの集客コンテンツになり得る素材の磨き上げと集約化、また一括した体験メニューの予約システムの導入、二次交通手段の充実等により、来訪者の周遊性を高め、日帰り観光地からの脱却を図る。							
総合戦略で関連するKPI	観光客入込客数(千人)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
		1,145	1,040	1,097	1,149	1,065	1,120	-
今後の方針	<p>事業の継続</p> <p>令和元年度に進めた事業をもとに、令和2年度では次の事業を展開する予定である。</p> <p>令和2年7月スタート</p> <p>新HP(よしのび)の公開(5カ国語対応)、ECサイトの公開、新商品の開発と販売、新ツアーの造成・催行、地域ポイント制度の導入</p>							
外部評価委員による評価	総合戦略のKPI達成に有効であった							
外部評価委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KPIの達成状況はやや不十分ではあるが、その分析もされており、今後の展開に期待出来る。</li> <li>・ 令和元年度までは実績を積み重ねることは可能でも、来年度以降はどうか？</li> <li>・ 事業費用に対する効果が分からない。</li> <li>・ (一社)ビューローの主体的な運営を行ってほしい。</li> <li>・ 幅広い事業の中でプロモーション評価が中心となっている。達成は難しかったが、継続して行うことが重要。</li> <li>・ 吉野町の各地域にある観光資源をうまく結びつけるための取組は必須であり、具体的な調査をはじめ動き出したことを実感している。</li> <li>・ 実績としては十分ではないかもしれないが、翌年度以降に十分つながっていく取組で、この取組や様々な知恵・戦略を打ち出していくことにより、十分な結果に近い将来つながっていくものとする。</li> <li>・ 次年度以降の取組や発信を大いに期待している。</li> </ul>							